

# JF日本語教育スタンダード 2010

JF Standard for Japanese-Language Education 2010

# **JF 日本語教育スタンダード2010**

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）



# JF日本語教育スタンダード2010

## 目 次

はじめに .....	1
JF日本語教育スタンダード2010全体マップ .....	2
JFスタンダードの木（折込み）	

### 1章 JF日本語教育スタンダードを使う前に

1.1 JF日本語教育スタンダードとは .....	6
1.2 言語によるコミュニケーションのとらえ方 .....	8
1.3 「Can-do」とは .....	10
1.4 ポートフォリオとは .....	12

### 2章 JF日本語教育スタンダードを使ってみる

2.1 「Can-do」を使って学習目標を明確にする .....	17
2.2 「Can-do」を使って学習成果の評価を考える .....	22

### 3章 みんなの「Can-do」サイトを使ってみる

3.1 みんなの「Can-do」サイトとは .....	26
3.2 使い方の流れ .....	28
3.3 使い方 .....	30

#### 【JFスタンダードご利用にあたっての免責について】

- 国際交流基金は、JFスタンダードの内容の正確性の確保に努めています。また、掲載する文書・写真・イラストその他各種コンテンツ等については、慎重に作成しておりますが、当基金がこれらの完全性を保証するものではありませんので、あらかじめご了承ください。
- JFスタンダードを利用してコースデザインやカリキュラム作成、試験作成や試験を行った場合、その正確性や有効性の責任はそれぞれの実施主体にあり、国際交流基金および欧州評議会は一切の責任を負いません。以上の内容をご理解頂いた上、ご利用ください。



## はじめに

国際交流基金が「相互理解のための日本語」という理念のもと、2005年より開発してきたJF日本語教育スタンダード（以下、JFスタンダード）を、『JF日本語教育スタンダード2010（以下、JFスタンダード2010）』としてお届けします。

国際交流基金では、海外に日本語を普及するにあたり、日本語のさらなる国際化を目指して、日本語教育のさまざまな基盤整備に取り組んできました。JFスタンダードは、まさにこの基盤整備の中心的な役割を担うものです。

価値観が多様化し、人と人との接触や交流が拡大していく現代社会においては、言葉によるコミュニケーションの重要性がますます高まっています。言葉を通じた相互理解のためには、その言語を使って何がどのようにできるかという課題遂行の能力と、さまざまな文化に触れることでいかに視野を広げ他者の文化を理解し尊重するかという異文化理解の能力が必要です。

『JFスタンダード2010』では、まず、日本語を使って何がどのようにできるかという能力に重点を置き、日本語の熟達度のレベルを提示しました。また、学習過程を記録し保存することの大切さを提案しました。多種多様な日本語教育の現場がいわば同じものさしを使うことで、世界中のどこで日本語を勉強しているも/教えていても、今自分が学んでいる/教えているレベルがどこにあるかを知ることができるようになります。また、熟達度を評価し、言語的・文化的体験を記録し振り返ることによって、課題遂行能力と異文化理解能力を育成し評価することができます。進学や留学、就職などで人が移動する際にも、それまでの学習成果や熟達度を正確に伝達できるようになります。

JFスタンダードの開発は、これまでの多くの研究知見や教育実践の再検討から出発しましたが、そのとき以来、内外の教育関係者・機関からの多大なご助言・ご協力を得て、今回の『JFスタンダード2010』の発表に至りました。ここに厚く御礼申し上げます。今後、『JFスタンダード2010』に広く各地の現場の声を反映させることを通じ、JFスタンダードの内容の充実と利便性の向上を目指してゆきたいと考えています。

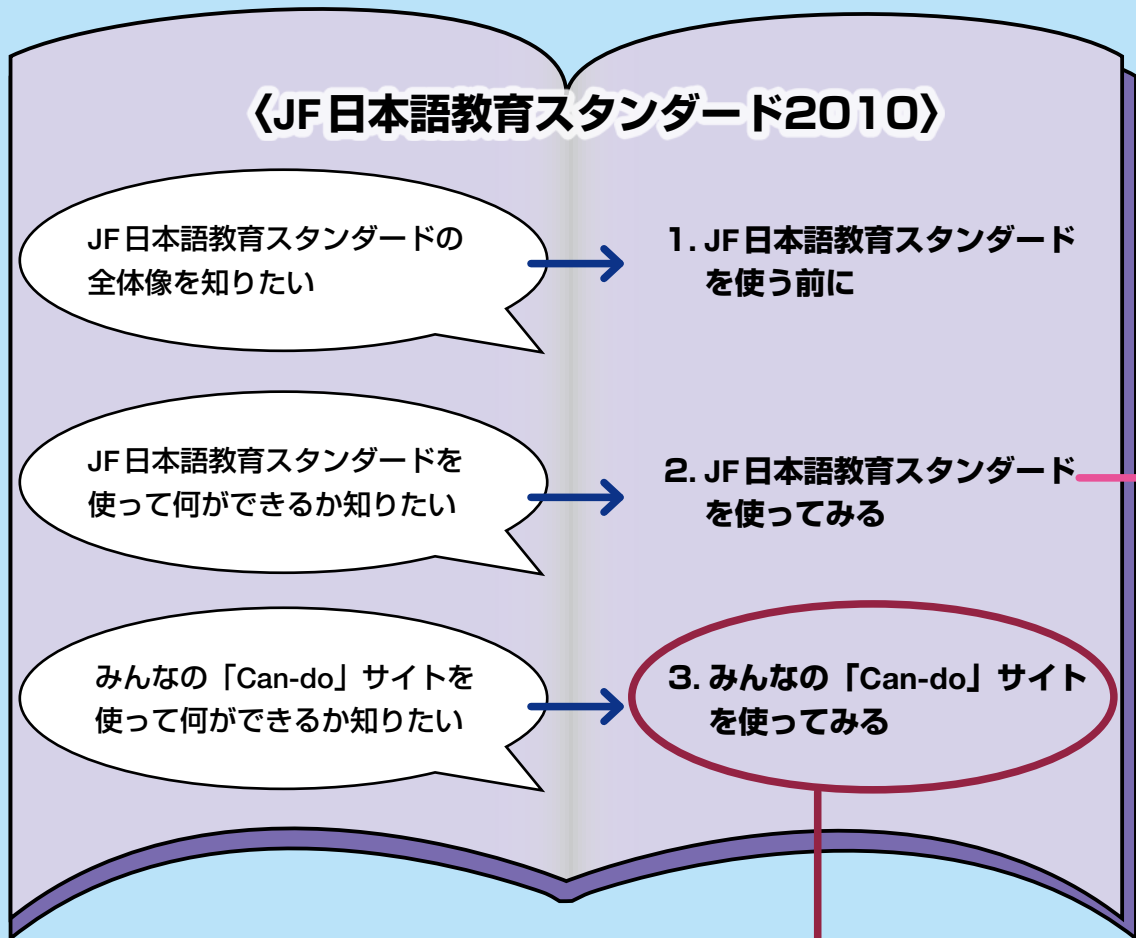
JFスタンダードにより、教師、学習者のみならず、日本語によるコミュニケーションに関心のあるすべての人々が共通の基盤に立ち、日本語がより学びやすくなりまたその有用性がより明確にされることを通じ、グローバル化が進む世界において、日本語教育がさらに発展し国際相互理解が促進されることを願ってやみません。

2010年5月

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）

# JF日本語教育スタンダード2010 全体マップ

『JF日本語教育スタンダード2010』では、JF日本語教育スタンダードの概要や、簡単な活用方法を知ることができます。



## みんなの「Can-do」サイト (<http://jfstandard.jp/cando>)

みんなの「Can-do」サイトは、日本語で何がどれだけできるかを「～ができる」という文で示した「Can-do」のデータベースです。コースデザイン、授業設計、教材開発など、Can-doを使った日本語教育実践をサポートします。

Can-doを探す

ログイン

わたしのページ

自分が作ったCan-doフォルダを編集したり、新しいCan-doを作ったりできます。

目的や対象者にあわせて、必要となるCan-doを選ぶことができます。

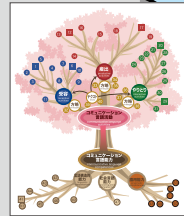
『JF日本語教育スタンダード2010利用者ガイドブック』は、JF日本語教育スタンダードのより詳しい活用方法を示したものです。  
 みんなの「Can-do」サイトや、JF日本語教育スタンダードのホームページもあわせてご利用ください。

## JF日本語教育スタンダード2010 〈利用者ガイドブック〉

JF日本語教育スタンダードを活用するときに必要な知識を得たい

### 知識編

- 1.1 JFスタンダードの木
- 1.2 6つのレベル
- 1.3 「Can-do」
- 1.4 ポートフォリオ



JF日本語教育スタンダードをどうやって活用すればいいのかわかりたい

### 実践編

- 2.1 コースをデザインする
- 2.2 コースデザインに「Can-do」を使う

JF日本語教育スタンダードの最新情報はホームページで確認することができます。

### JF日本語教育スタンダード (<http://jfstandard.jp>)

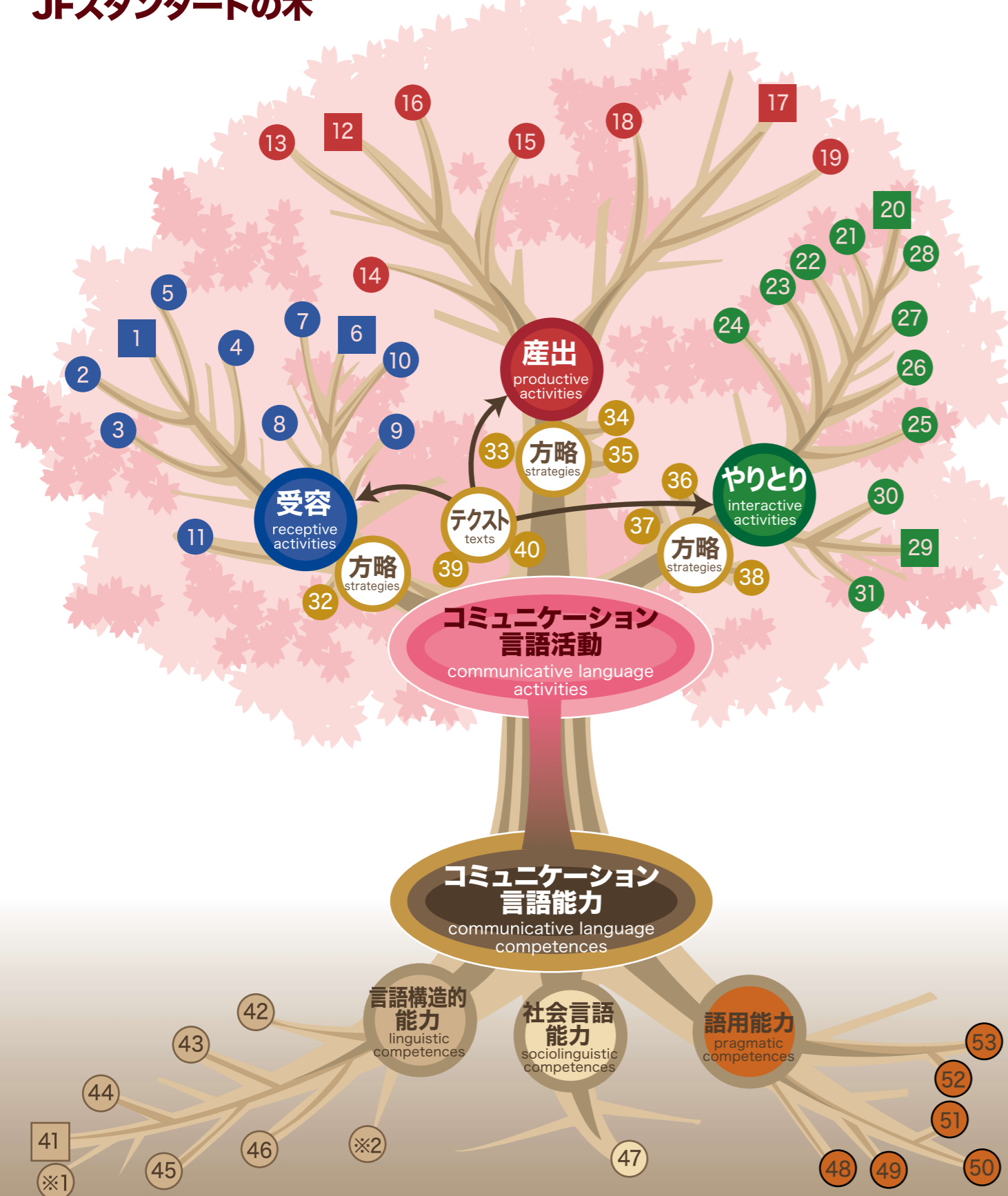


「活用事例」では、JF日本語教育スタンダードを実際に活用した事例報告を充実させていきます。



# JF日本語教育スタンダード 2010

## JFスタンダードの木



### 言語能力と言語活動のカテゴリー番号について

「JFスタンダードの木」の言語能力と言語活動のカテゴリー番号は、枝の部分の言語活動から根の部分の言語能力の順番で、木の上部から下部にいくにつれて番号が大きくなっています。また、■で囲まれた数字のカテゴリーは包括的あるいは総合的な活動や能力で、●で囲まれた数字のカテゴリーはより詳しく分類した活動と能力のカテゴリーです。(受容:1~11 産出:12~19 やりとり:20~31 方略:32~38 テキスト:39,40 能力:41~53)  
 JFスタンダードでは、日本語の熟達度を「～できる」という形式で示した文(「Can-do」)を、これらのカテゴリーに分類しカテゴリー内の「Can-do」を6レベルに分けて提供しています。  
 言語構造的な能力の「※1 意味的能力」、「※2 読字能力」については、能力として明記されていますが、現段階では、「Can-do」の記述はありません。

## コミュニケーション言語能力とコミュニケーション言語活動のカテゴリー

(communicative language competences) (communicative language activities)

**コミュニケーション言語活動** communicative language activities

**産出**

活動

- 12 話すこと全般 overall oral production
- 13 経験や物語を語る sustained monologue: describing experience
- 14 論述する sustained monologue: putting a case (e.g. in a debate)
- 15 公共アナウンスをする public announcements
- 16 講演やプレゼンテーションをする addressing audiences

方略

- 33 表現方法を考える planning
- 34 (表現できないことを)他の方法で補う compensating
- 35 自分の発話をモニターする monitoring and repair

**やりとり**

活動

- 20 口頭でのやりとり全般 overall spoken interaction
- 21 母語話者とやりとりをする understanding a native speaker interlocutor
- 22 社交的なやりとりをする conversation
- 23 インフォーマルな場面でやりとりをする informal discussion (with friends)
- 24 フォーマルな場面で議論する formal discussion and meetings
- 25 共同作業中にやりとりをする goal-oriented co-operation (e.g. repairing a car, discussing a document, organising an event)
- 26 店や公共機関でやりとりをする transactions to obtain goods and services
- 27 情報交換する information exchange
- 28 インタビューする/受ける interviewing and being interviewed
- 29 文書でのやりとり全般 overall written interaction
- 30 手紙やメールのやりとりをする correspondence
- 31 申請書類や伝言を書く notes, messages & forms

方略

- 36 発言権を取る(ターン・テイキング) taking the floor (turntaking)
- 37 議論の展開に協力する co-operating
- 38 説明を求める asking for clarification

**受容**

活動

- 1 聞くこと全般 overall listening comprehension
- 2 母語話者同士の会話を聞く understanding conversation between native speakers
- 3 講演やプレゼンテーションを聞く listening as a member of a live audience
- 4 指示やアナウンスを聞く listening to announcements and instructions
- 5 音声メディアを聞く listening to audio media and recordings
- 11 テレビや映画を見る watching TV and film
- 6 読むこと全般 overall reading comprehension
- 7 手紙やメールを読む reading correspondence
- 8 必要な情報を探し出す reading for orientation
- 9 情報や要点を読み取る reading for information & argument
- 10 説明を読む reading instructions

方略

- 32 意図を推測する identifying cues and inferring (spoken & written)

テキスト

- 39 メモやノートを取る note-taking (lectures, seminars, etc.)
- 40 要約したり書き写したりする processing text

**コミュニケーション言語能力** communicative language competences
 

**言語構造的な能力**

- 41 使える言語の範囲 general linguistic range
- 42 使用語彙領域 vocabulary range
- 43 語彙の使いこなし vocabulary control
- 44 文法的正確さ grammatical accuracy
- 45 音素の把握 phonological control
- 46 正書法の把握 orthographic control
- ※1 意味的能力 semantic competences
- ※2 読字能力 orthoepic competences

**社会言語能力**

- 47 社会言語的な適切さ sociolinguistic appropriateness

**語用能力**

**ディスコース能力**

- 48 柔軟性 flexibility
- 49 発言権 turntaking
- 50 話題の展開 thematic development
- 51 一貫性と結束性 coherence and cohesion

**機能的な能力**

- 52 話しことばの流暢さ spoken fluency
- 53 叙述の正確さ propositional precision

# JF日本語教育スタンダードを使う前に

## 1.1 JF日本語教育スタンダードとは

教え方

学び方

学習成果の評価の仕方

JF日本語教育スタンダード（以下、JFスタンダード）は、日本語の教え方、学び方、そして学習成果の評価のし方を考えるためのツールです。

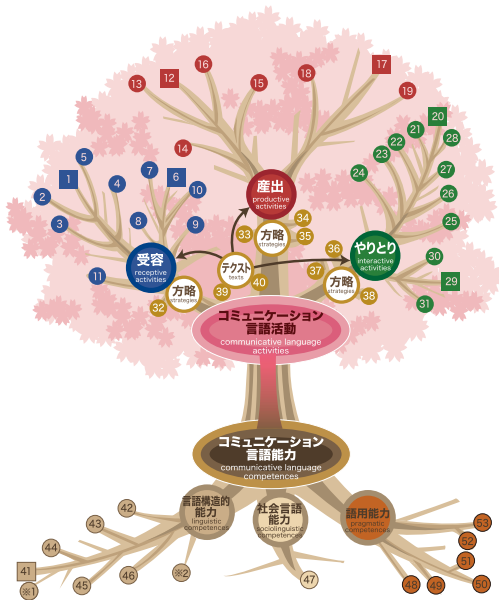
JFスタンダードを使うことによって、日本語で何がどれだけできるかという熟達度がわかります。また、コースデザイン、教材開発、試験作成などにも活用できます。

### JFスタンダードが参考にしたヨーロッパの取り組み

JFスタンダードは、ヨーロッパの言語教育の基盤であるCEFRの考え方を基礎にして作りました。CEFRとは、Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessmentの略で、ヨーロッパの言語教育・学習の場で共有される枠組みです。

CEFRは、2001年に発表されて以来、ヨーロッパのみならず世界で広く着目され、各言語で実際に利用されるようになりました。JFスタンダードも、CEFRの考え方にもとづいて開発しました。JFスタンダードを用いることにより、日本語の熟達度をCEFRに準じて知ることができます。

## 「Can-do」で熟達度を示す



JFスタンダードの開発にあたっては、言語によるコミュニケーションを、言語能力と言語活動の関係でとらえ、一本の木（「JFスタンダードの木」）で表現しました。

これにもとづいて、日本語の熟達度を「～できる」という形式の文で示し、6つのレベルにわけました。この「～できる」という文を「Can-do」と呼びます。

その具体的内容は、「みんなの「Can-do」サイト」で提供しています。

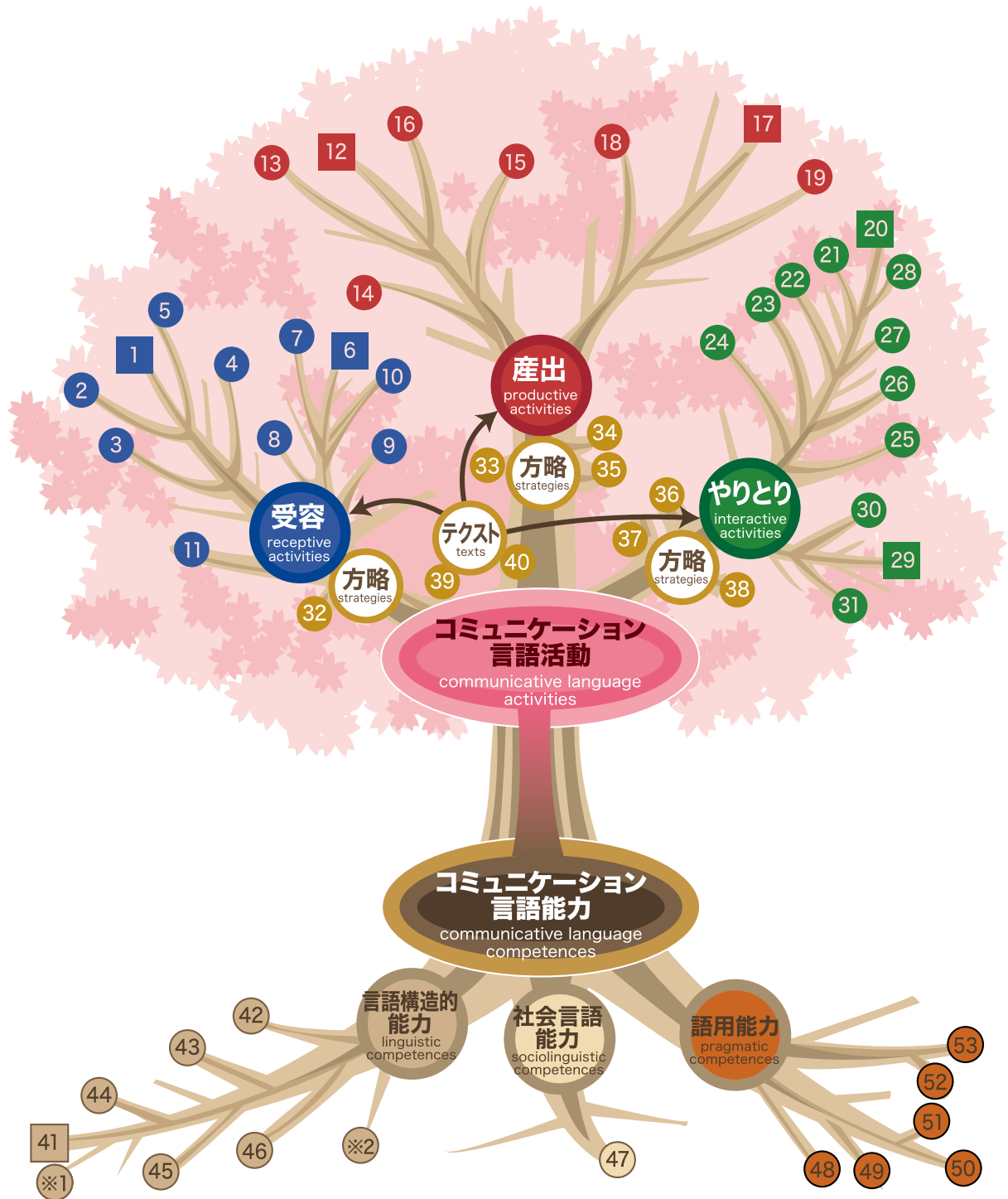


学習者が日本語の熟達度を自己評価し、学習過程をふり返るための方法としてポートフォリオがあります。学習者はポートフォリオを使うことによって、学習進度を意識しながら、学ぶことができます。



## 1.2 言語によるコミュニケーションのとらえ方—JFスタンダードの木—

図 1-1 「JFスタンダードの木」



JFスタンダードの木は、言語能力と言語活動の関係を整理したものです<sup>(1)</sup>。

言語によるコミュニケーションのためには、基礎となる言語能力が必要です。この言語能力を使って、さまざまな言語活動を行うことができます<sup>(2)</sup>。

### ■コミュニケーション言語能力 (communicative language competences)

木の根として表現され、言語によるコミュニケーションを支えるものです。言語能力は次の3つで構成されます。

語彙、文法、発音、文字、表記などに関する「言語構造的能力」  
相手との関係や場面に応じて適切に言語を使う「社会言語能力」  
ことばを組み立てたり、役割や目的を理解する「語用能力」

### ■コミュニケーション言語活動 (communicative language activities)

言語能力を基盤として、木の枝のように広がりがあり、多様性があるものです。言語活動は、読んだり聞いたりする「受容」、話したり書いたりする「産出」、会話などを行う「やりとり」に分類できます。さらに、その3つをつなぐ役割を果たす「テキスト」や、それぞれの活動と能力をつなぐ「方略」があります。

言語によるコミュニケーションのためには、図1-1で示したものの以外にも、文化に対する知識や専門知識、学習能力などさまざまな能力が必要です。

## 「JFスタンダードの木」で明確になること

日本語を学ぶ人たちの目的はさまざまです。日本の技術を学びたい、自国にいる日本人と話したい、日本のマンガを日本語で読みたい…など。人それぞれ目的がちがうのに、学習方法が同じである必要はありません。

「JFスタンダードの木」によって、重点をおくべき能力が明確になり、学習目的に応じた学習方針を組み立てることができます。

(1) 「JFスタンダードの木」の詳しい説明は、『JF日本語教育スタンダード2010 利用者ガイドブック』pp.1-5を参照してください。

(2) コミュニケーション言語能力 (communicative language competences) とコミュニケーション言語活動 (communicative language activities) の考え方や構成はCEFRに準じています。

### 1.3 「Can-do」とは

「Can-do」とは、日本語の熟達度を「～できる」という形式で示した文です。

「Can-do」には、6つのレベル（A1、A2、B1、B2、C1、C2）があります。例えば、図1-2は、「講演やプレゼンテーションをする」という言語活動がレベルによってどう変わっていくのかを「Can-do」で示したものです。<sup>(3)</sup>

#### みんなの「Can-do」サイト

「Can-do」は、「みんなの「Can-do」サイト」で提供しています。

サイトでは、目的に合わせた学習計画にそって「Can-do」を検索したり、自由に編集したりすることができます。

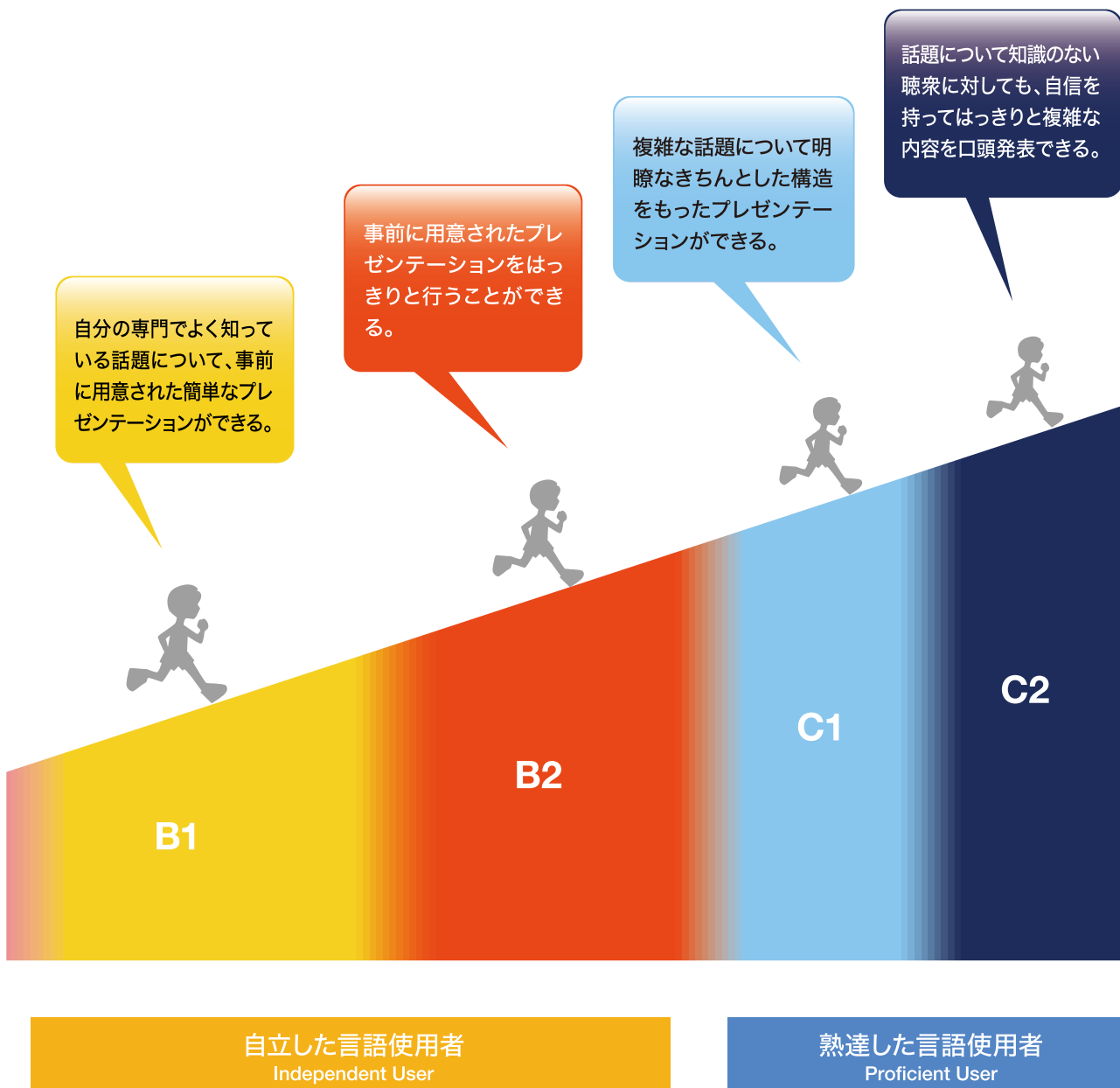
必要に応じて、新しい「Can-do」を作成することも可能です。

「Can-do」や「みんなの「Can-do」サイト」の詳細な説明は、「3章みんなの「Can-do」サイトを使ってみる」をご覧ください。



(3) 「Can-do」のレベルはCEFRに準じています。

図 1-2 「Can-do」の6レベル



## 「Can-do」を活用する効果

「Can-do」を活用することによって、日本語の熟達度を客観的に把握したり、今後の学習の目標を明確にしたりすることができます。また、他の人や他の機関とも目標や熟達度を共有できるようになります。

## 1.4 ポートフォリオとは

ポートフォリオは、学習過程を記録し、保存するものです。

### ポートフォリオの構成

JFスタンダードのポートフォリオは、「評価表」「言語的・文化的体験の記録」「学習の成果」の3つの要素で構成されます。

教師は、現場のニーズや目的に合わせて、3つの要素を組み合わせ、自由にポートフォリオを作ることができます。

使う前に

**自己評価チェックリスト**

自己評価チェックリスト		達成度	達成度	達成度	達成度	達成度	達成度
達成度	達成度	達成度	達成度	達成度	達成度	達成度	達成度
自己評価の目的	自己評価の目的を明確にする。自己評価の目的を達成するために必要な学習活動を計画する。						
自己評価の方法	自己評価の方法を明確にする。自己評価の方法を達成するために必要な学習活動を計画する。						
自己評価の結果	自己評価の結果を明確にする。自己評価の結果を達成するために必要な学習活動を計画する。						
自己評価の振り返り	自己評価の振り返りを明確にする。自己評価の振り返りを達成するために必要な学習活動を計画する。						
自己評価の改善	自己評価の改善を明確にする。自己評価の改善を達成するために必要な学習活動を計画する。						
自己評価の共有	自己評価の共有を明確にする。自己評価の共有を達成するために必要な学習活動を計画する。						
自己評価の活用	自己評価の活用を明確にする。自己評価の活用を達成するために必要な学習活動を計画する。						

### 評価表

教師が目標に合わせて作成します。  
 (例 自己評価チェックリスト、  
 学習活動の評価基準や評価シート、  
 成績表や修了証明書など)



「みんなの「Can-do」サイト」の「Can-do」を使って、自己評価チェックリストや評価基準を作ることができます。



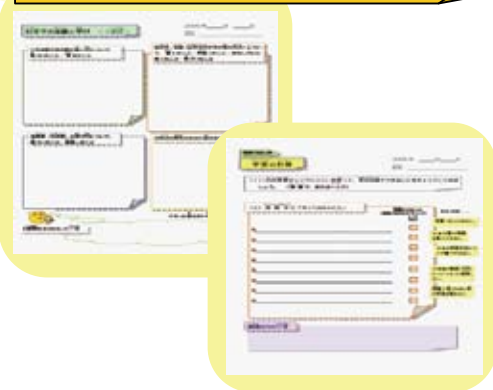
## ポートフォリオを活用する効果

ポートフォリオを活用することによって、学習者は日本語の熟達度を自己評価し、学習過程を振り返ることができます。また、学習者が他の教育機関に移動したときに、それまでの自分の学習成果を正確に伝えることができます。

### 言語的・文化的 体験の記録

学習者が自分の言語的・文化的体験などを記録します。(例 自由に設定した目標とその記録など)

#### 言語的・文化的体験の記録



### 学習の成果

学習者がコースの目標や自己目標にそって学習の成果を集めます。(例 作文、スピーチなどの音声資料、テスト、プロジェクトの成果物など)

#### 成果物



## JF日本語教育スタンダードを使ってみる

各教育現場でコースデザインをするとき、学習目標を設定し、目標に合った学習成果の評価について考えることが必要になります。図2-1は、コースをデザインするときの作業の流れ図で示したものです。この作業の流れの中で、学習目標を明確にし、学習成果の評価を考えるために、「JFスタンダードの木」「Can-do」「ポートフォリオ」を参考にすることができます。

### 「Can-do」を使って学習目標を明確にする

コースデザインをする際、教師と学習者が目標を共有し、学習者が目標を意識して学習を進めるために、「JFスタンダードの木」や「Can-do」を使って「学習目標一覧」と「自己評価チェックリスト」を作成します。「学習目標一覧」によって、目標と授業活動の関係を理解しやすくなります。「自己評価チェックリスト」によって、学習者は自分の日本語能力をコースの前後、またはコース途中で把握することができます。目標や学習の達成度を意識して学習を進めることができます。

### 「Can-do」を使って学習成果の評価を考える

コースデザインをする際、学習目標に合った評価基準を考え、目標と評価を一貫性のあるものにするために、「Can-do」を使って、「評価基準」と「評価シート」を作成します。

これらは、「ポートフォリオ」に入れて、学習成果の評価のために使います。JFスタンダードの「Can-do」を、学習目標の設定と学習成果の評価基準作成に使うことで、目標と評価を一貫性のあるものにすることができます。

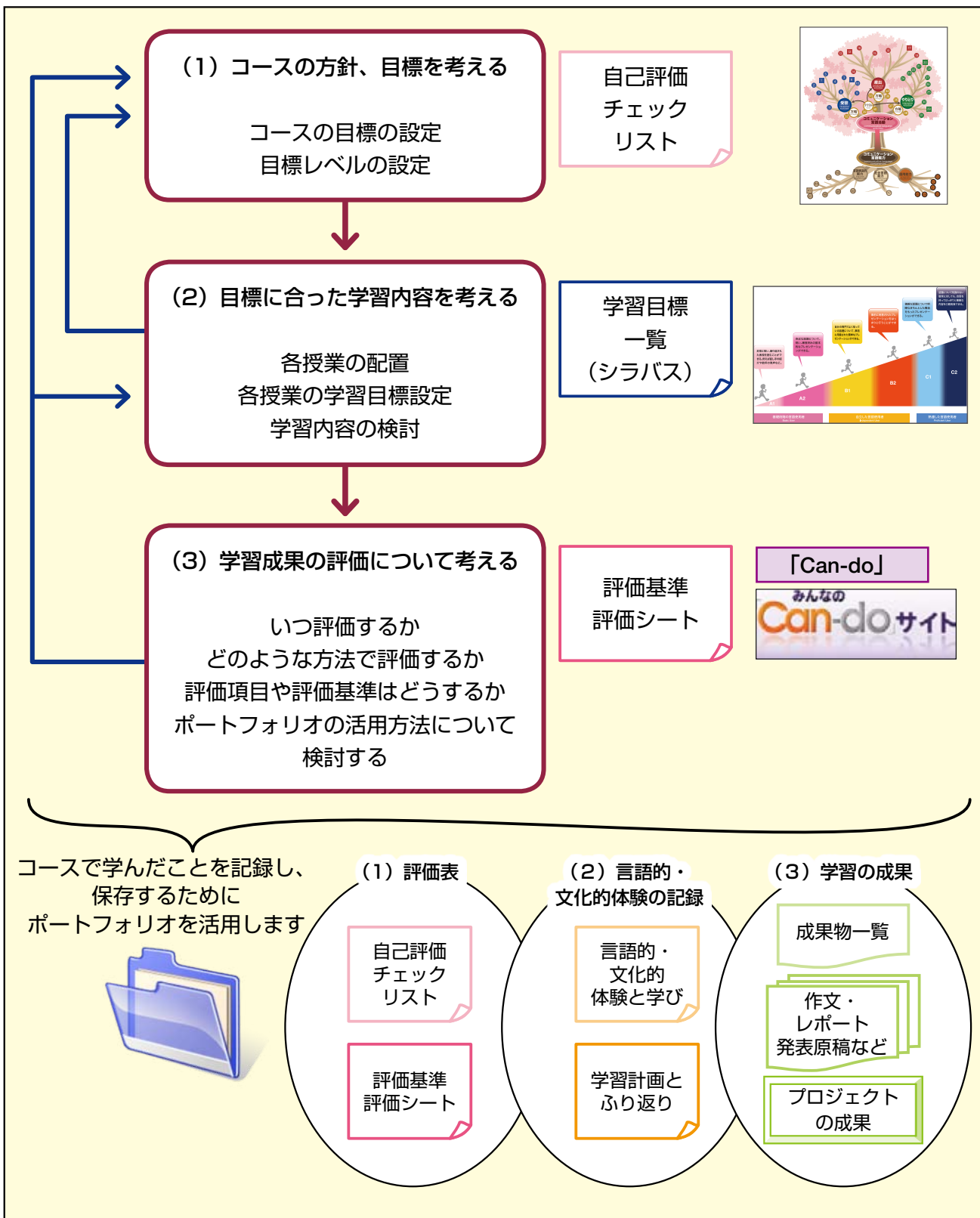
### 「ポートフォリオ」を評価のツールとして活用する

ポートフォリオを評価のツールとして活用します。学習者が自分の学習過程を記録・保存し、ふり返りやすい構成や形式を考えます。JFスタンダードでは、ポートフォリオを、「評価表」「言語的・文化的体験の記録」「学習の成果」の3つの構成要素で考えることを提案していますが、各教育現場の学習者のニーズや目的に応じて独自のポートフォリオを作成します。

ここでは、具体的なコースを想定して、「JFスタンダードの木」「Can-do」「ポートフォリオ」の活用例を紹介します<sup>(1)</sup>。そして、「2.1 「Can-do」を使って学習目標を明確にする」では、「Can-do」を使った「学習目標一覧」と「自己評価チェックリスト」の作成手順を、「2.2 「Can-do」を使って学習成果の評価を考える」では、「Can-do」を使った「評価基準」と「評価シート」の作成手順を紹介します。

(1) 「JFスタンダードの木」「Can-do」「ポートフォリオ」についての詳しい説明は、『JF日本語教育スタンダード2010 利用者ガイドブック』pp.1-32をご参照ください。

図 2-1 コースをデザインする



使  
 っ  
 て  
 み  
 る

\*コースデザインは、(1) コースの方針、目標を考える、(2) 目標に合った学習内容を考える、(3) 学習成果の評価について考える、の3段階で進めますが、これら3つの内容は、相互に関連していますので、図2-1で青の矢印で示しているように、必要に応じて前の段階の作業にもどって確認しながら作業を進めます。

## ■このコースの場合…

次のような具体的なコースを想定して、「JFスタンダードの木」「Can-do」「ポートフォリオ」の活用方法を紹介します。

### A国 ○△□日本語学校 大人を対象とした日本語コース

#### 学習者に関する情報

- 学習者  
教師、ビジネスマン、大学生など20名  
来日経験のある人もない人もいる。
- 学習歴  
日本語学習経験がある。  
日本人と基本的なやりとりはあまり問題なくできる。
- レベル  
レベルは現在A2程度。目標とするレベルはB1。
- 学習目的／動機
  - ・日本の社会や文化について理解を深め、仕事などで出会う日本人と日本語で円滑なコミュニケーションができるようになりたい。
  - ・身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について、ある程度詳しく、わかりやすく話せるようになりたい。

#### カリキュラムに関する情報

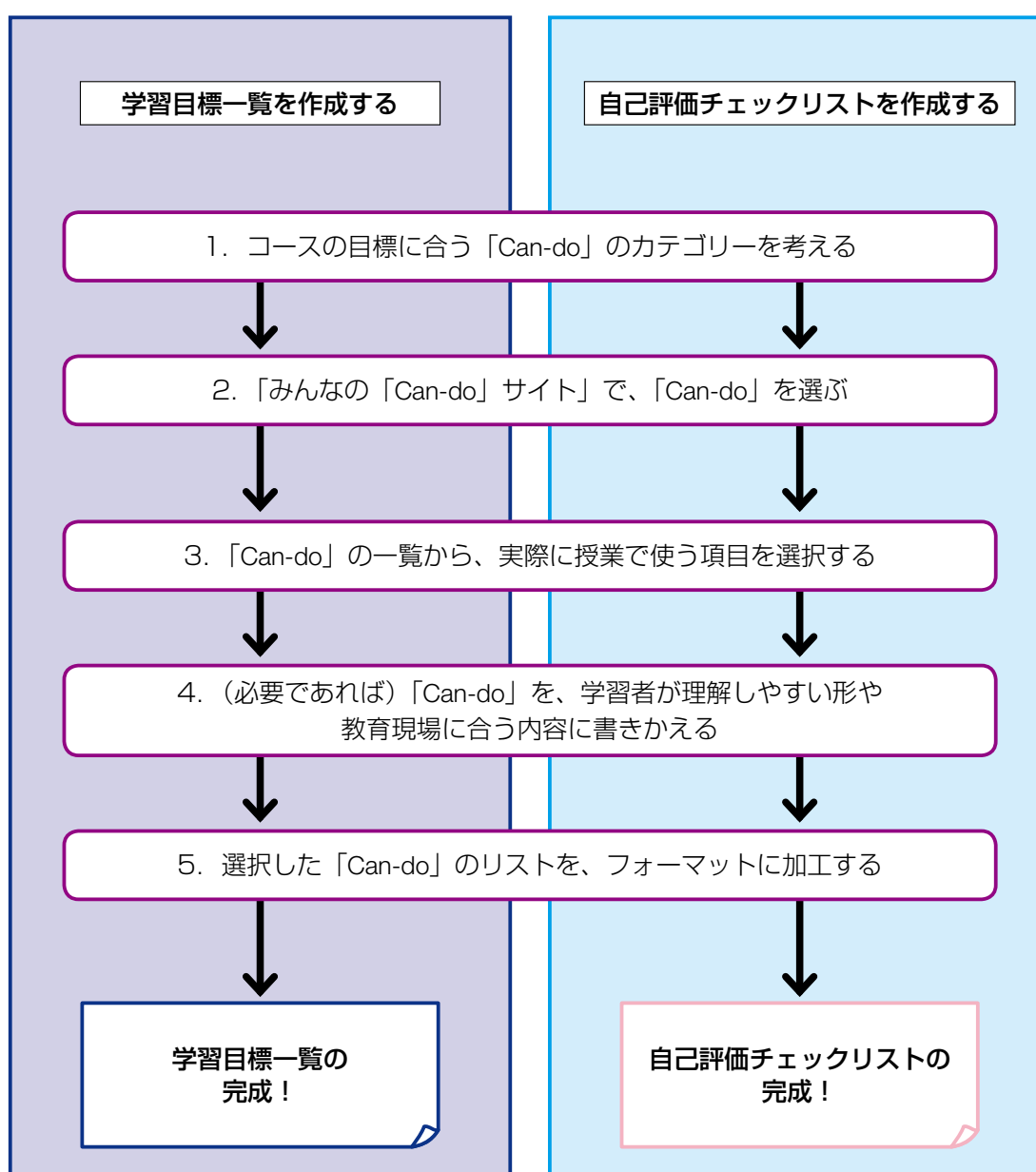
- コースの目標
  - ・日本人の考え方や習慣・文化について、また日本人がA国についてどのような知識や印象を持っているかなどについて理解を深め、自分自身の考え方や自国の習慣・文化などの相違点や類似点に気づくことができる。
  - ・仕事などで出会う日本人と、身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について社会的・文化的な相違点や共通点にも触れながら、ある程度の長さで、わかりやすく話すことができる。
- 学習時間  
総学習時間：42時間（3時間×14回）  
ただし、初回は「オリエンテーション」、最終回は「まとめ」の時間とするため、授業は、3時間×12回となる。
- 学習内容  
トピックごとに学習を進める。  
「自分と家族」、「旅行と交通」、「買い物」、「仕事と職業」、「人との関係」、「言語と文化」の6トピックを学習する。  
1トピックは3時間×2回で学習する。
- 使用教材  
特に教材は決まっていない。教師が独自に作成した教材を使用する。
- 学習成果の評価
  - ・ポートフォリオを活用して学習成果の評価を行う。
  - ・学習者はコースの開始時と終了時に「自己評価チェックリスト」を使った自己評価を行う。
  - ・授業の中で、3つのトピック（旅行と交通、仕事と職業、言語と文化）で口頭発表を行い、「評価基準」と「評価シート」を使って評価する。
  - ・最終回到3つのトピックで行った口頭発表のどれか1つを「会話テスト」として行う。
  - ・学習者はトピックごとに、学習を通じて、日本人の考え方や習慣・文化、自分自身の考え方や自国の習慣・文化について、新しく気づいたこと、考えたこと、などを「ふり返しシート」に書く。

\* 「自己評価チェックリスト」と口頭発表の「評価基準」「評価シート」を、ポートフォリオの【①評価表】に入れる。「ふり返しシート」を、ポートフォリオの【②言語的・文化的体験の記録】に入れる。発表原稿や提示資料、録音した音声などを、ポートフォリオの【③学習の成果】に入れる。

## 2.1 「Can-do」を使って学習目標を明確にする

コースデザインをする際、教師と学習者が目標を共有し、学習者が目標を意識して学習を進めるために、「JFスタンダードの木」や「Can-do」を使って「学習目標一覧」と「自己評価チェックリスト」を作成します。学習目標一覧と自己評価チェックリストを作成する全体の流れは、図2-2のようになります。

図2-2 「学習目標一覧」と「自己評価チェックリスト」作成の流れ



## ■このコースの場合… 一学習目標一覧を作る一

「A国 ○△□日本語学校 大人を対象とした日本語コース」を例にして、このコースの各トピックの学習目標一覧を作ります。

### ステップ1 コースの目標に合う「Can-do」のカテゴリーを考える

このコースの目標は、以下の2点でした。

- ・日本人の考え方や習慣・文化について、また日本人がA国についてどのような知識や印象を持っているかなどについて理解を深め、自分自身の考え方や自国の習慣・文化などの相違点や類似点に気づくことができる。
- ・仕事などで出会う日本人と、身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について社会的・文化的な相違点や共通点にも触れながら、ある程度の長さで、わかりやすく話すことができる。

まず、「JFスタンダードの木」(折込み)を見てみましょう。

上記のこのコースの目標は、コミュニケーション言語活動を表わすもののうち、【⑬経験や物語を語る】、【⑯講演やプレゼンテーションをする】というカテゴリーと関係ありそうです。

### ステップ2 「みんなの「Can-do」サイト」で「Can-do」を選ぶ

【⑬経験や物語を語る】と【⑯講演やプレゼンテーションをする】のカテゴリーの「Can-do」のうち、このコースの目標レベルであるB1で、このコースで取り上げる6つのトピック（「自分と家族」、「仕事と職業」、「買い物」、「旅行と交通」、「食生活」、「言語と文化」）の「Can-do」を選択します。

### ステップ3 「Can-do」の一覧から、実際に授業で扱う項目を選択する

選択した「Can-do」の一覧の中から、授業の中で実際に行う学習活動を記述した「Can-do」はどれかを考え、必要なものを選びます。

### ステップ4 (必要であれば)「Can-do」を学習者が理解しやすい形や教育現場に合う内容に書きかえる

⇒「MY Can-do とは？」(p.21)

選んだ「Can-do」の記述内容が難しい場合は、学習者の母語に翻訳したり、簡単な日本語に書きかえたりしましょう。

### ステップ5 選択した「Can-do」の一覧を学習目標一覧のフォーマットに加工する

図 2-3 学習目標一覧の例

## 学習目標

○△□日本語学校 2010年度 大人を対象とした日本語コース

## 【コースの目標】

- 日本人の考え方や習慣・文化について、また日本人がA国についてどのような知識や印象を思っているかなどについて理解を深め、自分自身の考え方や自国の習慣・文化などの相違点や類似点に気づくことができる。
- 仕事などで出会う日本人と、身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について社会的・文化的な相違点や共通点にも触れながら、ある程度の長さで、わかりやすく話すことができる。

回	トピック	学習目標
1	オリエンテーション	
2	自分と家族	新しく知り合った日本人に、自分自身の長所や短所について、ある程度詳しく話すことができる。
3		
4	仕事と職業 【評価①】	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。
5		
6	買い物	日本人と一緒に買い物に出かけたとき、自国で人気のある特産品やファッションなどについて、日本の特産品やファッションとの違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく紹介することができる。
7		
8	旅行と交通 【評価②】	日本人旅行者に、有名な観光地について、日本人が持っている情報をふまえて、ある程度詳しく説明することができる。
9		
10	食生活	日本人と食事をしているとき、自国と日本の食生活（マナーや食べ物など）の違いや共通点について、例をあげて、ある程度詳しく説明することができる。
11		
12	言語と文化 【評価③】	日本人を自宅に招待したとき、自国と日本の生活習慣（結婚式や年中行事など）の違いや共通点について、例をあげて、ある程度詳しく説明することができる。
13		
14	まとめ	

## ■このコースの場合… ー自己評価チェックリストを作るー

「A国 ○△□日本語学校 大人を対象とした日本語コース」を例にして、このコースの自己評価チェックリストを作ります。

### ステップ1 コースの目標に合う「Can-do」のカテゴリーを考える

このコースの目標は、以下の2点でした。

- ・日本人の考え方や習慣・文化について、また日本人がA国についてどのような知識や印象を持っているかなどについて理解を深め、自分自身の考え方や自国の習慣・文化などの相違点や類似点に気づくことができる。
- ・仕事などで出会う日本人と、身近で簡単なことだけでなく、いろいろな話題について社会的・文化的な相違点や共通点にも触れながら、ある程度の長さで、わかりやすく話すことができる。

まず、「JFスタンダードの木」(折込み)を見てみましょう。

上記のこのコースの目標は、コミュニケーション言語活動を表わすもののうち、【13 経験や物語を語る】、【16 講演やプレゼンテーションをする】、【33 表現方法を考える】、【34 (表現できないことを) 他の方法で補う】、【35 自分の発話をモニターする】というカテゴリーが関係ありそうです。

### ステップ2 「みんなの「Can-do」 サイト」で「Can-do」を選ぶ

前のステップで考えた【13 経験や物語を語る】、【16 講演やプレゼンテーションをする】、【33 表現方法を考える】、【34 (表現できないことを) 他の方法で補う】、【35 自分の発話をモニターする】のカテゴリーの「Can-do」のうち、学習者の現時点のレベルであるA2と、目標とするレベルであるB1の「Can-do」を選択します。今回は、コースの開始時と終了時に自己評価チェックリストを使うため、トピックが限定されていない「Can-do」を選びました。

### ステップ3 「Can-do」の一覧から、実際に授業で扱う項目を選択する

授業の中で実際に取り上げたい「Can-do」はどれかを考え、必要なものを選びます。

### ステップ4 (必要であれば)「Can-do」を学習者が理解しやすい形や教育現場に合う内容に書きかえる ⇒「MY Can-do とは？」(p.21)

選んだ「Can-do」の記述が難しい場合は、学習者の母語に翻訳したり、簡単な日本語に書きかえたりしましょう。

### ステップ5 選択した「Can-do」の一覧を自己評価チェックリストのフォーマットに加工する



図 2-4 自己評価チェックリストの例

**自己評価チェックリスト**

○△□日本語学校 2010年度 大人を対象とした日本語コース

名前：

A2		初日	最終日	B1		初日	最終日
活 動	出来事や活動の要点を短く述べるができる。			自分の関心ごとで、馴染みのあるさまざまな話題について、簡単に述べるができる。			
	計画、準備、習慣、日々の仕事、過去の活動や個人の経験を述べるができる。			比較的流暢に、簡単な語りができ、事柄を直線的に並べて述べるができる。			
	好きか嫌いかを述べるができる。			自分の感情や反応を描写しながら、経験を詳細に述べるができる。			
	事柄を列挙して簡単に述べたり、物語るができる。自分の周りの環境、例えば、人や場所、仕事、学習経験などの日常を述べるができる。			夢や希望、野心を述べるができる。			
	自分の毎日の生活に直接関連のある話題について、短い、練習済みのプレゼンテーションができる。意見、計画、行動に対して、理由を挙げて、短く述べるができる。			自分の専門でよく知っている話題について、事前を用意された簡単なプレゼンテーションができる。ほとんどの場合、聴衆が難なく話しについていける程度に、はっきりとしたプレゼンテーションをすることができ、また要点をそれぞれ正確に述べるができる。			
	話し終えた後、限られた数の簡単な質問に対処することができる。			質問には対応できるが、質問を話すスピードが速い場合は、もう一度繰り返すことを頼まねばならない。			
方 略	自分のレパートリーの中から適切な表現形を思い出して、使ってみることができる。			伝えたいことの要点を伝達する仕方を考えることができる。使える言語能力を総動員し、メッセージ表現のための手段を思い出せる、あるいは分かる範囲内に限定する。			
	手持ちの語彙の中から不適切な言葉を使っても、言いたいことをはっきりとさせるためにジェスチャーを使うことができる。			母語を外国語化して使ってみて、相手に確認を求められることができる。			
				伝えたい概念に類似した意味を持つ、簡単な言葉を使い、聞き手にそれを正しい形に「修正」してもらうことができる。			
				コミュニケーションが失敗したときは、別の方略を用いて出直すことができる。			
			自分が使った言語形式が正しいかどうか確認することができる。				

マーク  
 自信がある     できる     難しい     これからがんばりたい

使ってみる

**MY Can-do とは？**

JF スタンダードでは、各現場で独自に作成した「Can-do」をMY Can-do と呼びます。

**■なぜMY Can-do が必要？**

「みんなの「Can-do」サイト」で提供している「Can-do」が自分の教育現場の状況に合わないときは、MY Can-do を作成します。MY Can-do を作成することで、次のような利点があります。

- ・ 場面などをより具体的にすることで、現場の状況に合った「Can-do」にすることができる。
- ・ 記述をやさしくしたり、母語に訳したりすることで、学習者にもわかりやすい目標や評価基準にすることができる。

**■MY Can-do の作り方**

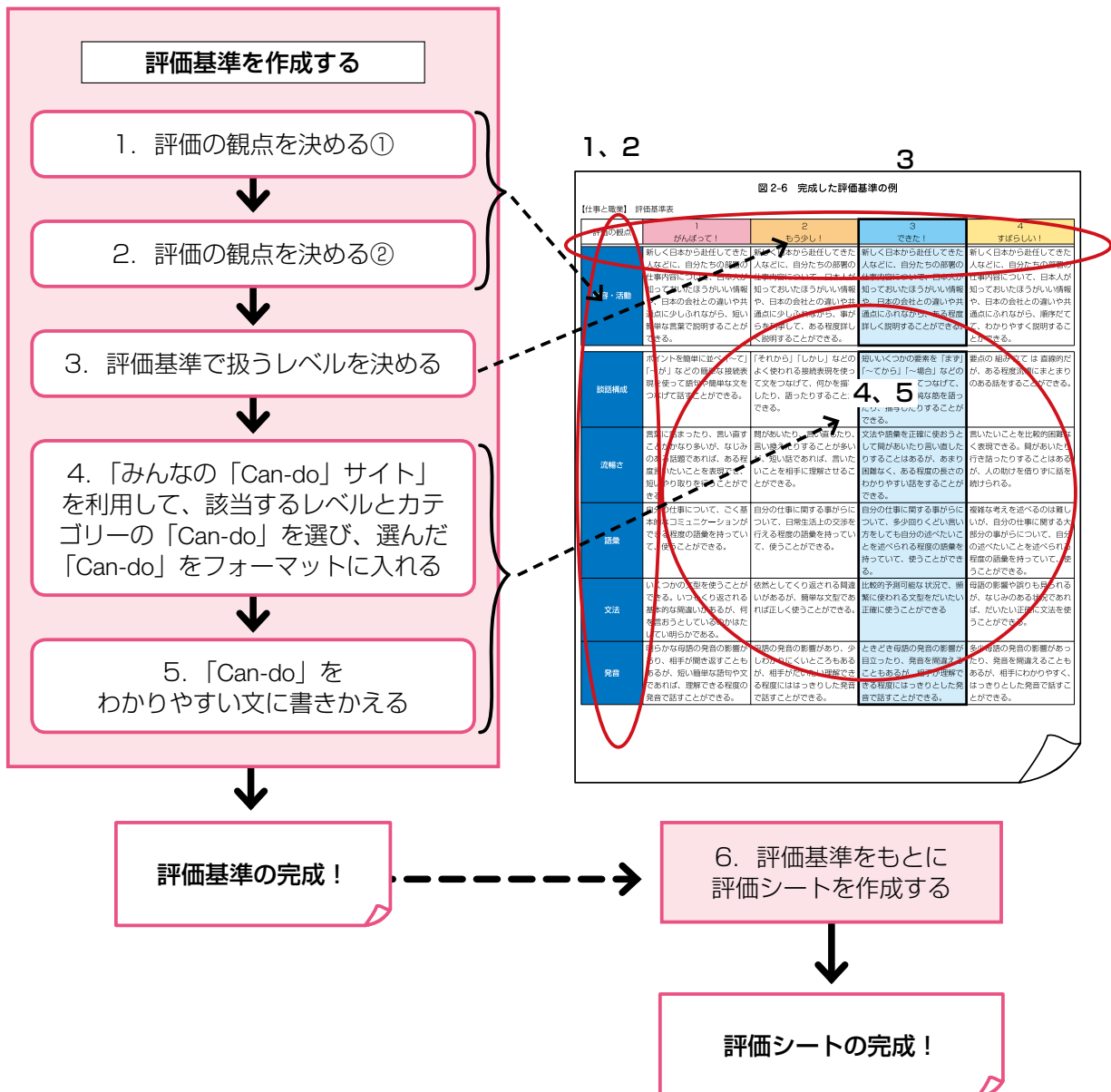
どのような条件ならできるか、どのような話題なら扱えるか、どのようなこと・ものをどのくらいできるかなど、条件や話題、対象、行動にレベルの特徴を付け加えることで、共通の言語熟達度の尺度にもとづいたMY Can-do を作成することができます。詳しい作り方については、『JF 日本語教育スタンダード2010 利用者ガイドブック』 pp.17-21を参照してください。

## 2.2 「Can-do」を使って学習成果の評価を考える

コースデザインをする際、学習目標に合った評価基準を考え、目標と評価を一貫性のあるものにするために、「Can-do」を使って「評価基準」と「評価シート」を作成します。

評価基準と評価シートを作成する全体の流れは、図2-5のようになります。

図 2-5 「評価基準」と「評価シート」作成の流れ



使ってみる

## ■このコースの場合… —評価基準と評価シートを作る—

「A国 ○△□日本語学校 大人を対象とした日本語コース」の、「仕事と職業」のトピックを例にして、「口頭発表」の「評価基準」と「評価シート」を作成します。

「仕事と職業」のトピックの学習目標は、「新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく話すことができる」です。評価基準を作成する流れについて、図2-5の流れにしたがって、ステップごとに見ていきましょう。

### ステップ1 評価の観点を決める①

このコースで目標とするB1レベルの産出（話す）の「Can-do」を見ながら、どのようなコミュニケーション言語能力が必要かを考えます。ここでは、以下のようなカテゴリが必要だと考えました。

【④2 使用語彙領域】、【④3 語彙の使いこなし】、【④4 文法的正確さ】、【④5 音素の把握】

【⑤0 話題の展開】、【⑤1 一貫性と結束性】、【⑤2 話しことばの流暢さ】

### ステップ2 評価の観点を決める②

トピックの学習目標も、評価の観点の1つとして利用します。

「仕事と職業」

新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく話すことができる。

### ステップ3 評価基準で扱うレベルを決める

このコースでは、学習者の話す力の差が小さいため、コースの目標レベルであるB1の「Can-do」と、学習者の現在の熟達度であるA2の「Can-do」を利用して、評価基準を作成します。学習者の話す力に大きな差がある場合は、A1からB2までを利用するなど、教育現場の現状に合わせて、評価基準で扱うレベルの幅を検討してください。

### ステップ4 「みんなの「Can-do」サイト」を利用して選んだ「Can-do」をフォーマットに入れる

ステップ1で選んだカテゴリのA2とB1の「Can-do」を「みんなの「Can-do」サイト」から出力し、フォーマットの各欄に配置します。

### ステップ5 「Can-do」をわかりやすい文に書きかえる

⇒「MY Can-doとは？」(p.21)

評価基準のフォーマットに入れた「Can-do」を、もとの内容を活かしながら、学習者にもわかりやすい文に書きかえます。学習者の母語が同じ場合は、母語を利用することもできます。達成できていないことや足りない点を書くのではなく、達成できていることを前向きな表現で書くことによって、学習者の動機づけとなります。図2-6は、完成した評価基準の例です。

### ステップ6 評価基準をもとに、評価シートを作成する

ステップ5で完成した評価基準をもとに、発表者用と教師用の評価シートを作成します。

このコースでは、評価基準のフォーマットと記述内容をそのまま利用し、あてはまる達成度にチェックする方法にしました。評価シートには、学習者や教師が自由にコメントを記述する欄を設けました。

図2-7は、評価基準を利用して作成した発表者用の評価シートの例です。

図 2-6 完成した評価基準の例

【仕事と職業】 評価基準表				
評価の観点	1 がんばって！	2 もう少し！	3 できた！	4 すばらしい！
内容・活動	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、短い簡単な言葉で説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、事らを列挙して、ある程度詳しく説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうが良い情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、順序だてて、わかりやすく説明することができる。
談話構成	ポイントを簡単に並べ、「～で」「～が」などの簡単な接続表現を使って語句や簡単な文をつなげて話すことができる。	「それから」「しかし」などのよく使われる接続表現を使って文をつなげて、何かを描写したり、語ったりすることができる。	短いいくつかの要素を「まず」「～で」「～から」「～場合」などの接続表現を使ってつなげて、直線的だが、単純な筋を語ったり、描写したりすることができる。	要点の組み立ては直線的だが、ある程度流暢にまとまりのある話をするすることができる。
流暢さ	言葉に詰まったり、言い直すことがかなり多いが、なじみのある話題であれば、ある程度言いたいことを表現でき、短いやり取りを行うことができる。	間があいたり、言い直したり、言い換えたりすることが多いが、短い話であれば、言いたいことを相手に理解させることができる。	文法や語彙を正確に使おうとして間があいたり言い直したりすることはあるが、あまり困難なく、ある程度の長さのわかりやすい話をするすることができる。	言いたいことを比較的困難なく表現できる。間があいたり行き詰ったりすることはあるが、人の助けを借りずに話を続けられる。
語彙	自分の仕事について、ごく基本的なコミュニケーションができる程度の語彙を持っていて、使うことができる。	自分の仕事に関する事柄について、日常生活上の交渉を行える程度の語彙を持っていて、使うことができる。	自分の仕事に関する事柄について、多少回りくどい言い方をしても自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。	複雑な考えを述べるのは難しいが、自分の仕事に関する大部分の事柄について、自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。
文法	いくつかの文型を使うことができる。いつもくり返される基本的な間違いがあるが、何を言おうとしているのかはたいてい明らかである。	依然としてくり返される間違いがあるが、簡単な文型であれば正しく使うことができる。	比較的予測可能な状況で、頻繁に使われる文型をだいたい正確に使うことができる。	母語の影響や誤りも見られるが、なじみのある状況であれば、だいたい正確に文法を使うことができる。
発音	明らかな母語の発音の影響があり、相手が聞き返すこともあるが、短い簡単な語句や文であれば、理解できる程度の発音で話すことができる。	母語の発音の影響があり、少しわかりにくいところもあるが、相手がだいたい理解できる程度にははっきりした発音で話すことができる。	ときどき母語の発音の影響が目立ったり、発音を間違えることもあるが、相手が理解できる程度にはっきりとした発音で話すことができる。	多少母語の発音の影響があったり、発音を間違えることもあるが、相手にわかりやすく、はっきりとした発音で話すことができる。

使ってみる

図 2-7 評価基準をもとに作成した評価シートの例

〈発表者用〉				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>仕事と職業</b> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>【目標】</b>                      新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。                 </div>		名前
評価の観点	1 がんばって!	2 もう少し!	3 できた!	4 すばらしい!
内容・活動	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、短い簡単な言葉で説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点に少しふれながら、事柄を列挙して、ある程度詳しく説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、ある程度詳しく説明することができる。	新しく日本から赴任してきた人などに、自分たちの部署の仕事内容について、日本人が知っておいたほうがいい情報や、日本の会社との違いや共通点にふれながら、順序だてて、わかりやすく説明することができる。
談話構成	ポイントを簡単に並べ、「～て」「～が」などの簡単な接続表現を使って語句や簡単な文をつなげて話すことができる。	「それから」「しかし」などのよく使われる接続表現を使って文をつなげて、何かを描写したり、語ったりすることができる。	短いいくつかの要素を「まず」「～てから」「～場合」などの接続表現を使ってつなげて、直線的だが、単純な筋を語ったり、描写したりすることができる。	要点の組み立ては直線的だが、ある程度流暢にまとまりのある話をするすることができる。
流暢さ	言葉に詰まったり、言い直すことがかなり多いが、なじみのある話題であれば、ある程度言いたいことを表現でき、短いやり取りを行うことができる。	間があいたり、言い直したり、言い換えたりすることが多いが、短い話であれば、言いたいことを相手に理解させることができる。	文法や語彙を正確に使おうとして間があいたり言い直したりすることはあるが、あまり困難なく、ある程度の長さのわかりやすい話をするすることができる。	言いたいことを比較的困難なく表現できる。間があいたり行き詰ったりすることはあるが、人の助けを借りずに話を続けられる。
語彙	自分の仕事について、ごく基本的なコミュニケーションができる程度の語彙を持っていて、使うことができる。	自分の仕事に関する事柄について、日常生活上の交渉を行える程度の語彙を持っていて、使うことができる。	自分の仕事に関する事柄について、多少回りくどい言い方をしても自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。	複雑な考えを述べるのは難しいが、自分の仕事に関する大部分の事柄について、自分の述べたいことを述べられる程度の語彙を持っていて、使うことができる。
文法	いくつかの文型を使うことができる。決まって犯す基本的な間違いがあるが、何を言おうとしているのかはたいいてい明らかである。	依然として繰り返される間違いがあるが、簡単な文型であれば正しく使うことができる。	比較的予測可能な状況で、頻りに使われる文型をだいたい正確に使うことができる	母語の影響や誤りも見られるが、なじみのある状況であれば、だいたい正確に文法を使うことができる。
発音	明らかな母語の発音の影響があり、相手が聞き返すこともあるが、短い簡単な語句や文であれば、理解できる程度の発音で話すことができる。	母語の発音の影響があり、少しわかりにくいところもあるが、相手がだいたい理解できる程度にははっきりした発音で話すことができる。	ときどき母語の発音の影響が目立ったり、発音を間違えることもあるが、相手が理解できる程度にはっきりとした発音で話すことができる。	多少母語の発音の影響があったり、発音を間違えることもあるが、相手にわかりやすく、はっきりとした発音で話すことができる。
<div style="border: 2px solid pink; border-radius: 15px; padding: 10px; min-height: 80px;">                     できたこと／よかったところ                 </div>		<div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; min-height: 80px;">                     むずかしかったこと／これからがんばること                 </div>		

使ってみる

# みんなの「Can-do」サイトを使ってみる

<http://www.jfstandard.jp/cando/>

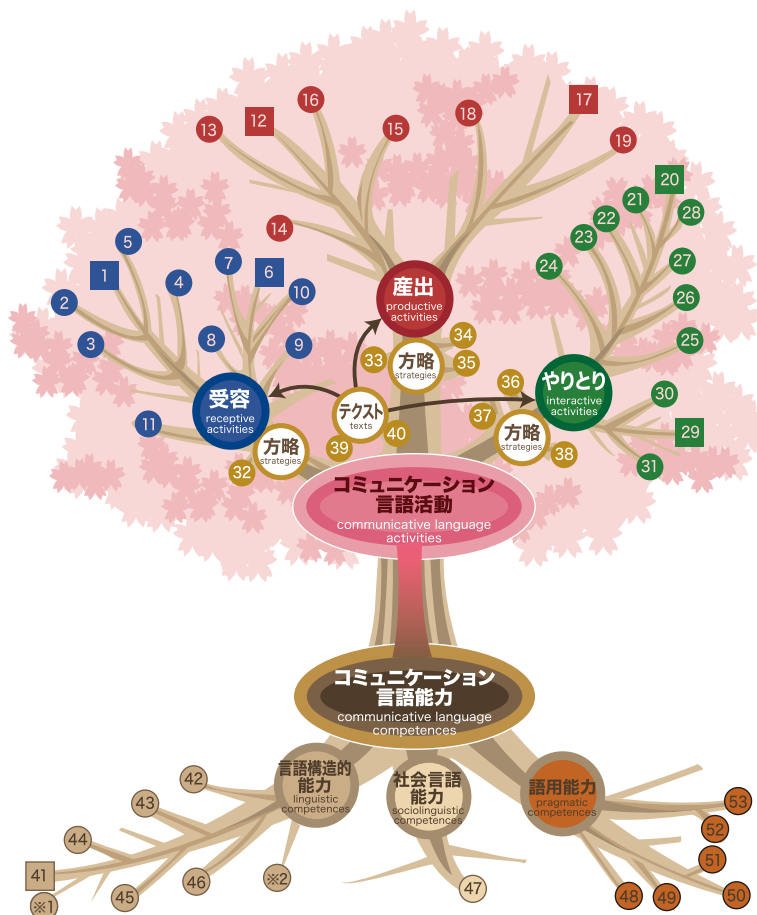
## 3.1 みんなの「Can-do」サイトとは

みんなの「Can-do」サイトは、日本語で何がどれだけできるかを「～ができる」という文で示したCan-doのデータベースです。コースデザイン、授業設計、教材開発など、Can-doを使った日本語教育実践をサポートします。

### みんなの「Can-do」サイトを使ったたとえば…

コーディネーターは	教師は	学習者は
実社会のコミュニケーション活動を想定したコースデザインができます。 学習者の日本語能力を把握するためのアンケートを作成することができます。	授業の目標をCan-doを使って作成することができます。 学習者と授業の目標を共有しやすくなります。	自分の日本語能力を自己評価し、目標を立てやすくなります。 日本語を使って具体的に何ができるのか、他者に伝えることができます。

図 3-1 「JF スタンドードの木」

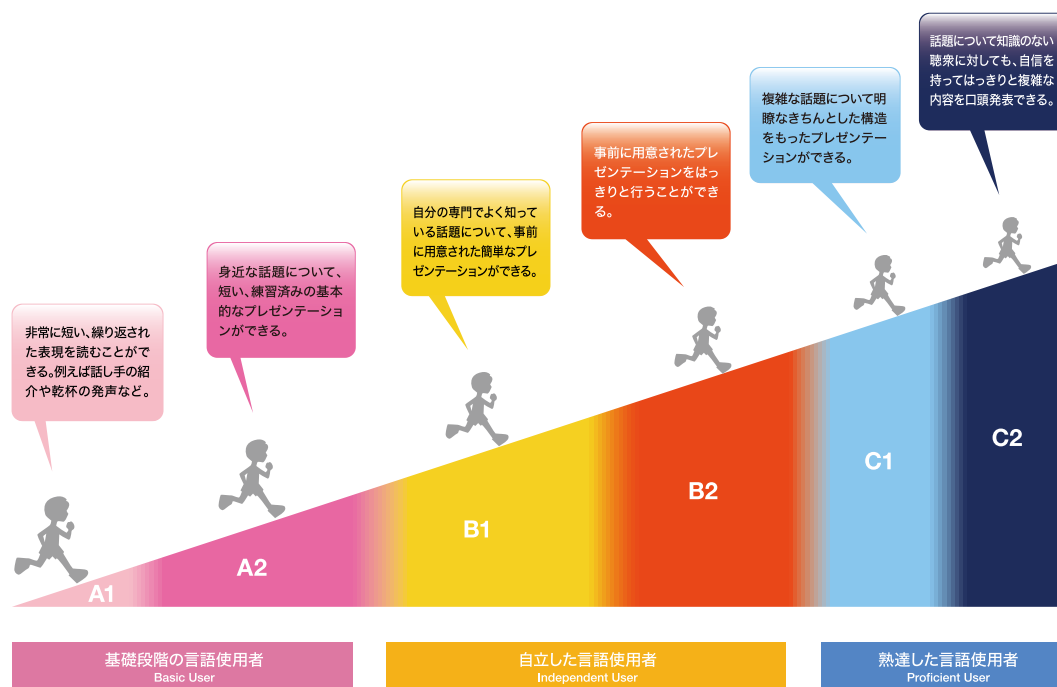


みんなの「Can-do」サイトを使ってみる

みんなの「Can-do」サイトは、「JFスタンダードの木」(図3-1)と「Can-doの6レベル」(図3-2)をもとにCan-doを提供しています。

「JFスタンダードの木」では、コミュニケーション言語能力 (communicative language competences) (以下、言語能力) とコミュニケーション言語活動 (communicative language activities) (以下、言語活動) の構成要素を例示していますが<sup>(1)</sup>、レベル別に記述されるものは、枝や根の一部です。これらひとつひとつの枝や根を、みんなの「Can-do」サイトでは「カテゴリー」と呼び、それぞれにレベル別に記述されたCan-doがあります。サイトでは木の構造を簡略化したカテゴリーマップを用いて、Can-doを探することができます。

図3-2 Can-doの6レベル



みんなの「Can-do」サイトでは、CEFRが提供する493のCEFR Can-doと、国際交流基金が日本語の言語活動の例として示したJF Can-doを提供します。Can-doは、6つのレベル (A1、A2、B1、B2、C1、C2) にわかれています。A2、B1、B2をさらに細かくわけた9レベル (A1、A2.1、A2.2、B1.1、B1.2、B2.1、B2.2、C1、C2) でCan-doを記述することもあります。

(1) コミュニケーション言語能力 (communicative language competences) とコミュニケーション言語活動 (communicative language activities) の考え方や構成はCEFRに準じています。

### 3.2 使い方の流れ

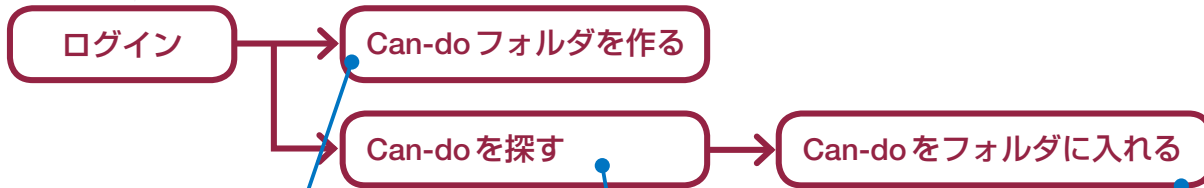
サイトでどんなことができるかデモ画面を見ます。



みんなの「Can-do」サイトは、「Can-doを探す」「わたしのページ」「サイトの使い方」「みんなのページ（平成22年度以降）」から構成されています。タブで移動することができます。

1. 探す

2. 選んで入れる



まずはじめに

「わたしのページ」で新しいCan-doフォルダを作ります。

検索結果を見て、使いたいと思うCan-doにチェックを入れて、フォルダに入れます。

※初めてサイトを使う新規ユーザーの方には、「新しいフォルダ」が1つ用意されています。



すでにあるフォルダの基本情報を編集したいときは、

Can-doフォルダ  
基本情報編集 をクリックします。

3. 編集する

4. 出力する

出力する前に  
ソートします。

フォルダの情報を編集する

MY Can-doを作る

いらないCan-doを取り除く

Can-doを他のフォルダに入れる

検索画面に戻ってCan-doを選ぶ

フォルダを分析する

Excelに出力する

No.	レベル	言語	言語能力のレベル	Can-doの日本語	Can-doの英語	出力形式
1	初級	日本語	基礎的な日本語の理解と表現	基礎的な日本語の理解と表現	基礎的な日本語の理解と表現	Excel
2	初級	英語	基礎的な英語の理解と表現	基礎的な英語の理解と表現	基礎的な英語の理解と表現	Excel
3	中級	日本語	中程度の日本語の理解と表現	中程度の日本語の理解と表現	中程度の日本語の理解と表現	Excel
4	中級	英語	中程度の英語の理解と表現	中程度の英語の理解と表現	中程度の英語の理解と表現	Excel

Excelに出力します。  
必要に応じてフォーマットを  
整えます。

目的や対象者に合わせて、  
自分のオリジナルCan-do  
(MY Can-do)を作ることができます。

関連Can-doを表示する をクリックすると、  
関連Can-doの情報を確認できます。

### 3.3 使い方

みんなの「Can-do」サイトの使い方を「探す」「選んで入れる」「編集する」「出力する」の4つのステップにそって詳しく説明します。



「Can-doを探す」画面では、条件(レベル、種別、カテゴリ、トピックなど)を指定して、Can-doを探すことができます。

#### 〈機能説明〉

- ① レベル、種別、トピックを選びます。フリーキーワードでCan-doの本文から探すこともできます。  
CEFR Can-doは9レベルで探すこともできます。たとえば、A2.1にチェックを入れると、A2.1のCan-doが検索結果として表示されます。
- ② カテゴリを選びます。カテゴリマップでは、**運動**、**方略(ストラテジー)**、**テキスト**、**能力**の種類別にカテゴリが並んでいます。
- ③ **探す** をクリックします。①の方法(レベル、種別、トピック、フリーキーワードを指定)、②の方法(カテゴリマップでカテゴリを指定)で探すこともできますし、①と②を組み合わせて、探すこともできます。



#### 💡 使い方のヒント!

まず、**わたしのページ** でCan-doフォルダを作りましょう

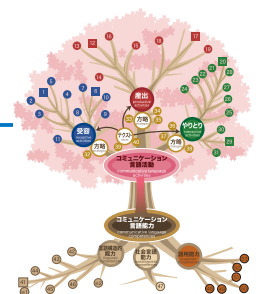
#### 💡 使い方のヒント!

カテゴリマップを使う前に、**JFスタンダードの木** を見てみましょう。

#### 💡 使い方のヒント!

##### 学習者のレベル確認

対象となる学習者のレベルを確認したい方は、「レベルとは」をクリックし、全体的な尺度や自己評価表を参考にしましょう。



検索しやすいように、「JFスタンダードの木」を簡略化してカテゴリマップにしました。

## むさし先生はこんなふうに使ってみました！

こんにちは。僕の名前はむさしです。日本語教師になって1年目、楽しく日本語を教えています。  
今、担当している学習者の多くはビジネス場面で使える日本語能力を伸ばしたいと思っています。そこでお客さんの前でプレゼンテーションするスキルを高めるのに必要な能力を考えるために、みんなの「Can-do」サイトを使ってみることにしました。



まず、 の で「プレゼンテーションスキルを伸ばす！」というCan-doフォルダを作成します。 に移動して、Can-doを選んでみます。  
今回は、プレゼンテーションに関するカテゴリーとして、 の「講演やプレゼンテーションをする」を選択します。

### 種別

Can-doには種別がある

**CEFR Can-do**：CEFRが例示する493のCan-do。

**JF Can-do**：国際交流基金が日本語の言語活動の例として示すCan-do。トピック別に記述される。

**MY Can-do**：サイトの利用者がオリジナルで作成するCan-do。

### 種類

4つの種類のCan-doがある

**活動**：実社会で行う具体的な言語活動を例示したものを活動Can-doと呼びます。受容、産出、やりとり別に記述されます。

**方略(ストラテジー)**：言語活動を効果的に行うために言語能力をどのように活用したらよいかというコミュニケーション方略 (communicative strategies) を例示したものを方略Can-doと呼びます。受容、産出、やりとりに分類されます。

**テキスト**：要約やノート取りなど、受容と産出、やりとりを行うときに、まとめたり言いかえたりする言語活動について例示したものをテキストCan-doと呼びます。

**能力**：言語活動を行うために必要な言語能力を例示したものを能力Can-doと呼びます。言語構造的な能力 (linguistic competences)、社会言語能力 (sociolinguistic competences)、語用能力 (pragmatic competences) の3つで構成されます。

### 言語活動の種類

Can-doは3つの言語活動で記述される



受容 (Reception)

「読む」「聞く」など受容的言語活動 (理解する)



産出 (Production)

「話す」「書く」など産出的言語活動 (表現する)



やりとり (Interaction)

「会話」「手紙のやりとり」など相互行為的言語活動

### トピック

JF Can-doには15のトピックがある

日本語の言語活動の例を示したJF Can-doは、「自分と家族」「住まいと住環境」「自由時間と娯楽」「生活と人生」「仕事と職業」「旅行と交通」「健康」「買い物」「食生活」「自然と環境」「人との関係」「学校と教育」「言語と文化」「社会」「科学技術」の15のトピック別に記述されます。



「Can-doを選んで入れる」では、検索結果から、自分のコースや授業に使いたいCan-doを選び、自分が作ったCan-doフォルダに入れることができます。

### 〈機能説明〉

- ① 検索結果の一覧が表示されます。検索結果は項目別に並べ替える（ソートする）ことができます。
- ② 自分のコースや授業に使いたいCan-doのチェックボックスをクリックして **入れる** を押すと、選んだCan-doがCan-doフォルダに登録されます。このとき、プルダウンでCan-doフォルダを選択することができます。検索結果が複数ページになる場合は、1ページずつCan-doを選んでCan-doフォルダに入れます。
- ③ Can-do（本文）をクリックすると、Can-doの詳細情報を見ることができます。Can-doの詳細画面で **関連Can-doを表示する** をクリックすると、関連するCan-doの情報を確認することもできます。
- ④ **前のページに戻って探す** を押すと、Can-doを探す画面に戻り、検索条件を変えてもう一度探すことができます。



### 💡 使い方のヒント！

#### 新しいCan-doフォルダの作り方

「**おもしろいページ**」の **新しいCan-doフォルダを作る** をクリックすると、Can-doフォルダの情報を入力する画面に移動することができます。

### 💡 使い方のヒント！

#### 最後に変更したフォルダを見る

「Can-doを探す」や、検索結果で **Can-doフォルダを見る** を押すと、最後に変更を加えたCan-doフォルダの画面に移動することができます。Can-doフォルダの基本情報や、フォルダに入っているCan-doの一覧を見ることができます。

### 💡 使い方のヒント！

Can-doの本文は日本語と英語で切り替えることができます。

## むさし先生はこんなふうに使ってみた！

「講演やプレゼンテーションをする」カテゴリーのCan-doを見ていくと、記述のレベル差がわかります。僕の学習者が目標にするレベルはB1くらいだと思います。B1レベルのCan-doにチェックをして、Can-doフォルダに入れます。



### 〈B1レベルのCan-do例〉


「自分の専門でよく知っている話題について、事前に用意された簡単なプレゼンテーションができる」  
 「自分の国について学ぶ集まりで、あらかじめ準備してあれば、自分の国や町の様子などについて、まとまりのある簡単なプレゼンテーションをすることができる」

## Can-doを選んで入れる：応用編

### 使い方のヒント！

#### Can-do詳細画面から、関連Can-doを見てみよう

Can-do詳細画面では、Can-doの属性を詳しく知ることができます。

また、みんなの「Can-do」サイトでは、同レベルの同カテゴリーに属するCan-doや、同レベルの方略Can-doや能力Can-doを、関連するCan-doとして示しています。ここにもあなたが使いたいCan-doがあるかもしれません。  で関連Can-doも見てください。

## むさし先生はこんなふうに使ってみた！

僕が選んだB1レベル「講演やプレゼンテーションをする」の「自分の専門でよく知っている話題について、事前に用意された簡単なプレゼンテーションができる」の関連Can-doを見てみると、同カテゴリーに属するもののほか、「話すこと全般」や、同じレベルの方略Can-do、能力Can-doが表示されました。この中から、プレゼンテーションをする時に必要となるだろう方略Can-doもCan-doフォルダに入れることにしました。



### 〈B1レベル：産出の方略Can-do例〉

「伝えたいことの要点を伝達する仕方を考えることができる」  
 「自分の言いたかったことを、類似の意味を持つ言葉を修飾することで言い表すことができる」

## Can-doフォルダ

目的や対象にあわせて「Can-doフォルダ」を作ることができる

Can-doフォルダとは、Can-doを入れる入れ物のことです。コースデザイン、カリキュラムデザイン、授業設計、教材開発、テスト開発など、利用者の方の目的や対象に応じてCan-doフォルダを作ることができます。

Can-doフォルダには、〈フォルダの使用目的〉〈フォルダ名〉〈概要（たとえば、そのコースではどのようなことを目的としているか、どのような学習者が対象となっているか）〉〈学習時間（たとえば、コースでの総時間）〉などを基本情報として入力します。

平成22年度中に、Can-doフォルダを他の利用者と共有する機能が追加される予定です。



「編集する」画面では大きく2つの編集ができます。

まず、「Can-doフォルダを編集する」では、Can-doの基本情報を編集したり、Can-doを入れたり取り除いたりできます。

「Can-doを編集する」では、Can-doフォルダに入れられたCan-doを自分の目的や対象に合わせて書き換えたり、新しく作ったりすることができます。

### 〈機能説明〉

#### 【Can-doフォルダを編集する】

- ① Can-doフォルダの基本情報を編集するページに移動します。
- ② チェックボックスにチェックの入ったCan-doをこのフォルダから **取り除く** ことができます。
- ③ チェックボックスにチェックを入れたCan-doを、他のCan-doフォルダに入れることができます。
- ④ このCan-doフォルダの全情報を削除することができます。

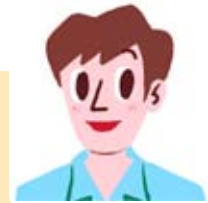
#### 【Can-doを編集する】

- ⑤ 選んで入れたCan-doを参考にしながら、Can-doの目的や対象に合わせてオリジナルのCan-do (MY Can-do) を作ることができます。
  - A) Can-do (本文) をクリックすると、Can-doの詳細を見ることができます。
  - B) **新しいCan-doフォルダを作る** をクリックします。
  - C) すでにあるCan-doをもとにCan-doを書き換えてMY Can-doとして登録することができます。
- ⑥ Can-doをいちから新しく作ることもできます。



## むさし先生はこんなふうに使ってみた！

自分の授業の目的や対象者に合わせてオリジナルのCan-doを作ってみます (MY Can-do作成)。



### 🌱 使い方のヒント！

まず、【レベル】を選びます。  
 【種類】【言語活動】【カテゴリー】をプルダウンから選びます。  
 つぎに、【トピック】を選びます。そのほかに関連するトピックがある場合は、チェックします。  
 「レベルとは」をクリックして、【条件】【話題・場面】【対象】【行動】のレベルの特徴記述を参考にしながら、Can-doを書いてみましょう。



## むさし先生はこんなふうに使ってみた！

「自分の国について学ぶ集まりで、あらかじめ準備してあれば、自分の国や町の様子などについて、まとまりのある簡単なプレゼンテーションをすることができる」をもちに、Can-doを作ってみます。レベルやカテゴリーは変えず、話題・場面を変えてみたいと思います。

「社内の勉強会で、あらかじめ準備してあれば、自分が調べた他社製品の特徴や自社製品との違いなど、まとまりのある簡単なプレゼンテーションをすることができる」というMY Can-doができました。



### Can-doの構造

Can-doは 条件+話題・場面+対象+行動 の4つの要素から成る

CEFRの活動Can-doの記述を4つの要素【条件】【話題・場面】【対象】【行動】に分解し、それぞれのレベルの特徴を示しました。これら4つの要素でレベルごとに特徴的な記述をすることで言語能力の熟達度にもとづくことができます。

MY Can-doを作成する際は、対象となる学習者が特定されていることが多いため、レベルを特徴づける4つの要素の一部を省略して一文を短くすることもできます。



「Can-doを出力する」では、Can-do フォルダをさまざまな観点から分析することができます。Can-doの順番を並べ替え(ソート)、エクセル(Microsoft Excel)に出力することができます。

**〈機能説明〉**

- ① Can-do フォルダに入れたCan-doを、さまざまな観点からグラフで分析することができます。
- ② Can-doの順番を並べ替える(ソート)することができます。
- ③ Can-do フォルダの情報をエクセルに出力することができます。

**レベル別出力** : シートがA1からC2までのレベル別にわかれて出力されます。

**言語活動別出力** : シートが、受容・産出・やりとり・テキスト・言語構造的な能力・社会言語能力・語用能力別にわかれて出力されます。

**使い方のヒント!**

**Can-doフォルダ分析** を押し、レベルごと、種別ごと、言語活動ごとに分析できます。フォルダに入れたCan-doをグラフにすることで、選んだCan-doが自分の目的や対象に合っているかを確認することができます。フォルダを分析した後、Can-doを追加したい場合には、**Can-doを探す** に戻ってCan-doを探してみましょう。

みんなの「Can-do」サイトを使ってみよう



## 🌱 使い方のヒント！

### Excelのフォーマットを直す

シラバス、自己評価チェックリスト、授業記録、評価シートなど、自分の使うフォーマットに整えましょう。Can-doをさらに使いやすい並び順にソートしたり、列・行の幅を調整したり、フォントを変更したりしてください。また、印刷の際は、印刷の範囲を確認してから印刷するようにしてください。

### Excel の出力イメージ

種別	レベル	種類	言語活動	カテゴリー	Can-do本文（日本語）	Can-do本文（英語）	トピック
CEFR	B1	活動	産出	講演やプレゼンテーションをする	自分の専門でよく知っている話題について、事前に用意された簡単なプレゼンテーションができる。ほとんどの場合、聴衆が難なく話しについていける程度に、はっきりとしたプレゼンテーションをすることができ、また要点をそこそこ正確に述べることができる。	Can give a prepared straightforward presentation on a familiar topic within his/her field which is clear enough to be followed without difficulty most of the time, and in which the main points are explained with reasonable precision.	
CEFR	B1	活動	産出	講演やプレゼンテーションをする	質問には対応できるが、質問を話すスピードが速い場合は、もう一度繰り返すことを頼まねばならない。	Can take follow up questions, but may have to ask for repetition if the speech was rapid.	
JF	B1	活動	産出	講演やプレゼンテーションをする	ガイドとして有名な観光地などを案内するとき、あらかじめ準備してあれば、名所や名物などを、ある程度詳しく紹介することができる。	Can introduce in some detail famous sights, local specialties and other features when giving people a tour of, for example, a famous sightseeing area as a professional guide, if preparations are made in advance.	仕事と職業
JF	B1	活動	産出	講演やプレゼンテーションをする	電気屋などの職場で、あらかじめ準備してあれば、客に電子辞書などの商品について、ある程度詳しく紹介し、想定した質問に答えることができる。	Can introduce in some detail electronic dictionaries or other products to a customer at an electronics store or any other workplace, and respond to anticipated questions about the products, if preparations are made in advance.	仕事と職業

「講演やプレゼンテーションをする」ために必要なCan-doを選ぶことができました！



みんなの「Can-do」サイトでは、日本語教師の教材作成を支援する「みんなの教材サイト」(<http://minnanokyoza.jp/>) と同じユーザーID、パスワードを利用することができます。





---

## JF日本語教育スタンダード 2010

2010年7月発行

【編著・発行】 独立行政法人国際交流基金（ジャパンファウンデーション）

【担 当】 日本語国際センター事業化開発チーム  
〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和5-6-36  
TEL：048-834-1183 FAX：048-831-7846

- 
- JF日本語教育スタンダードに関するその他詳しい情報は、ウェブサイト< <http://jfstandard.jp> > をご覧下さい。
  - 『JF日本語教育スタンダード 2010』に対するご意見やご質問は、< [jfstandard@jpf.go.jp](mailto:jfstandard@jpf.go.jp) > にご連絡下さい。

---

©2010 The Japan Foundation

『JF日本語教育スタンダード 2010』の著作権は、独立行政法人国際交流基金が所有しています。

ISBN 978-4-87540-121-6